



第14号  
平成14年3月

問い合わせ・連絡先  
企画編集：「かがやく」編集委員会  
発行：入間市教育委員会生涯学習課  
〒358-8511 入間市豊岡1-16-1  
TEL 042-964-1111(内4123)  
FAX 042-964-4841  
題字 平井 遼介君(新久小 6年)

生涯学習とは？ 生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。

生涯学習ギャラリー



影絵「モチモチの木」  
グループモコモコ作(藤の台公民館サークル)  
光と影のファンタジーに魅せられて18年、子供たちの笑顔に会いたくて、9人の仲間と楽しく活動しています。



木工「お馬の親子」  
大竹良三さん作(ウッディいるま)  
木には数百年の時間が隠されています。その重みが一つ一つの作品に表わされるように心がけて作っています。

見る / 聞く / 楽しむ / イベントガイド

ギャラリー 陶庵	☎966-4565 (水・木・金のみ) ☎965-4813	3/1~29	山口広文絵画展 入間市美術協会会員作品常設展示
ユーホー	☎966-5161	3/18~20	キルト展(市役所・市民ギャラリー)
エポック	☎965-8228	3/11~30	誠雲水墨画展 4/1~14 鈴木安子絵画展 4/15~30 「はばたき」作品展 5/1~18 華鳥書道展
こむ	☎964-2229	3/13~24	ペアーレ吉留絵画教室4人展 3/27~31 中出ミツ枝クラフト展 4/3~14 井ヶ田昭一油彩画展
路路	☎962-5960	3/17~31	シオン会川村教室水彩画展 4/16~30 桜井・渡辺二人展(水彩) 6/16~30 ミニチュア60展(油水彩他)

今号は、3月からの民間のイベントをご案内いたします。その他の入間市で開催されるイベントについては、「広報いるま」や「いるま生涯学習ガイドブック」等をご参照ください。なお、民間のイベントの情報がありましたら、お知らせください。

100% 古紙配合率100% 再生紙を使用しています

特集	.....	2・3面
いるま生涯学習 あんな話・こんな話・話の交差点	.....	4面
生涯学習アラカルト	.....	.....
第7回いるま生涯学習フェスティバル報告	.....	.....
生涯学習に関する市民意識調査実施	.....	.....
かがやくネットワーク募集	.....	.....
編集後記	.....	.....
今号の題字	.....	.....



第7回いるま生涯学習フェスティバル開催

去る12月3日(日)、入間市産業文化センターを中心会場として、第7回いるま生涯学習フェスティバルが開催されました。今回は、「元気!やる気!活気!!」をキャッチフレーズに入間市を元気にしようと活動している団体やサークル・教室、学校や企業など、100あまりの参加がありました。

元気講演、学校支援ボランティア、高校・大学の公開講座に関するディスカッション、公民館等のサークル活動の作品展示や体験、出店など多くの催しで賑わいました。

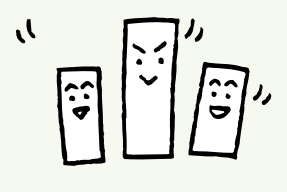


客席も興奮!講演会



活気!賑わうフェスティバル

生涯学習アラカルト



生涯学習に関する市民意識調査実施

市民の生涯学習活動の現状把握と今後の推進を図るため、市教育委員会が昨年10月に市内在住の40歳以上の方1000人を対象にアンケート調査を行いました。489人の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

《かがやく》ネットワークの募集!

生涯学習情報紙「かがやく」では、市民の皆さんの生の声と多くの情報を求めています。ネットワーク協力員として、ご参加いただける方を募集しています。  
生涯学習情報収集  
おしゃべり大会(たのしい生涯学習会議)  
その他  
問い合わせ・連絡先は「かがやく」編集委員会 TEL964-1111(内線4123)



世界を震撼させた同時テロ、長引く景気の低迷等、暗い前年だったと思います。

今年心新たに干支の午にあやかり、天馬の如くはばたいて元気な情報紙づくりに、スタッフ一同頑張っていきます。(高橋利久)

今号の題字

昨年11月に国際宇宙ステーションと初の直接無線交信に成功した「入間市児童センター無線クラブ」のメンバー平井遼介君に書いてもらいました。

編集スタッフ 池田静子・新宅かよ子・高橋妙子・高橋利久・土屋照子  
永石珠江・西垣寿夫・野村和雄・長谷川正子(五十首順)



ニトベイナゾウ来タル



豊岡公会堂

いまや五千円札の顔となった新渡戸稲造。昭和三年春、豊岡公会堂（大正十二年）昭和四十九年で開催された講座「豊岡大学」の講師として豊岡町（現・入間市）を訪れ、演壇に立ったのです。

豊岡大学は、当時の町長・繁田武平が退任後、青年の教育の場作りを提唱し、地域の若者を対象に開催されました。大正十四年から十五年間、年に春と秋の二回、一講座三日間で政治、経済、哲学、文化等をテーマに二十五回続きました。第八回を迎えたときから、女性も参加できるようになり女性の受講生の数が男性を上回ることもあったようです。

いまむかし

講師には、他に犬養毅、尾崎行雄、後藤新平、奥むめを、羽仁もと子など、各界で活躍している著名人を迎えました。

構想十三年、多くの反対を押し切り、県で初めて公会堂建設に尽力した繁田武平が、その夢であった学びの場を完成させたのです。その社会教育に対する情熱の歴史が入間の地には、今も脈々と受け継がれています。



修了証も出た豊岡大学講座風景



いるま生涯学習

アミーゴ体験記

染めと織りの一日 『ぶらり体験コース』

噂のアミーゴに染色と手織りの『ぶらり体験コース』参加のために行きました。

午前染め、午後には織りができるという一日のコースを選んでまずは染めから。地元ならではの茶染めと藍染めがあり、ハンカチスカーフ、ストールのうち、今回はハンカチに挑戦。棒、大豆、輪ゴム等で絞りのやり方を教わり、染めの工程を順番に終えます。茶染めは濃い黄色から茶色まで、藍染めはうす青から藍色まで濃淡はお好みで。思いがけない出来上がりには、満足して感動！

織りはコースター、ランチヨン

AMIGO! 入間市文化創造アトリエ 入間市仏子766-1 仏子駅より徒歩3分 問い合わせ先 TEL 042-931-3500 FAX 042-931-3700

マットのうち、ランチヨンマットに決めて、たて糸をベースに、よこ糸を何色か選びました。機の使い方になると緊張しましたが、色の替え方も手取り足取り、ためし織りまでをいねいに教えてもらいあとはひたすらボタンボタンと一時間余り織り続けてやっと三十センチとなり完成。



そして完成！感動！



手とり足とり学ぶ



吉田先生の指導で、まず挑戦！

まちに映画がやって来た ユナイテッドシネマ入間 (i pot)

シネマコンプレックス（見たいものを選べる映画館）が入間にできて一年が経ち定着してきました。収容人数は千九百名で九つのスクリーンは、百人から四百人までの規模で対応できます。映画を通して、表現、芸術活動の場を広げ、市民に親しまれる事業を活発に展開しています。「映画文化を考える市民会議」が地域の中で生まれ、映画文化を通して街の活性化につながる一役を担っています。古い映画、珍しい作品など、企画、条件が合えば、自主上映形式で映画館に協力してもらうことも可能で、先月に上映

くらだに (春日町) パッチワーク、漆、陶芸作品を展示、お茶、軽食も可。 火・水 午前十一時から午後五時 09654630 いるま工房 (黒須) 落ち着いた雰囲気、常設の陶芸が展示。 要連絡 09643383

された「百合祭」もその一つでした。市制施行三十五周年記念行事で高齢者の招待、新成人を祝福する映画祭の実施など、行政との連携で市民にとっては、「近場で好きな映画を見る」ということを再認識する良い機会になりました。スクリーンを通して外国を知った世代、アニメを通して夢を膨らませた世代にとって、映画館への

学習塾のさきがけ 木原塾 故木原信雄氏

昭和三十二年、戦地で受けた左足の負傷にめぐることなく、武蔵町（現・鍵山）の自宅を開放し、学習塾を開いた故木原信雄さん。学習塾だけでなく、人間形成が大切と挨拶や礼儀も厳しく指導し、当時のツツパリッ子たちを立ち直らせたつもりもありません。また、家族参加の遠足や小旅行は、それぞれの家族のコミュニケーションを深める場となったのです。勉強の合間の息抜きは卓球。楽しい配慮に遠くからでも多くの子どもたちが

通いました。「文化の目を開かせる」ことに力を注いだ木原さんは、平成七年に七十三歳で亡くなるまで、書や絵画の教室も主宰し、入間市美術協会会長も務めるなど、幅広く生涯学習に情熱を傾けました。木原さんと奥様の尽力で多くの人材を輩出した木原塾、黒光りした柱のキズ跡に触れてみると、今でもイタズラッ子たちの歓声が聞こえてくるようです。



完成させた鬼瓦と元気な増田さん

明治三年から昭和十六年まで小谷田瓦を製造販売していた増田瓦店の三代目、増田昌巳さん。小谷田瓦は、川越の蔵づくりに象徴される瓦で、今も町並みに残されています。当時、自宅の土地から採取した粘土は、硬質で瓦作りに適していました。また、瓦を焼く薪として、高温で火の勢いのある松の木にも恵まれていました。

増田さんが八十歳になった時、鬼瓦のことが脳裏に蘇り、作ってみようと挑戦し、見事に完成したのです。それらは、小谷田の東光寺薬師堂に八枚、京都の大江町にある「日本鬼瓦の交流博物館」からの依頼で寄贈もしています。九十四歳になった今も、「まだまだ、やりたいことがいっぱい」と生涯現役で頑張っています。

立川流鬼瓦を再現 生涯現役!!九十四歳

大正期のある時、仕事でやって来た静岡の立川流という彫刻の技術を持つ職人が、鬼瓦を作り、評判をとりました。